

沈下橋は国の有形文化財

壺 斗俵の集落は、窪川トンネルから県道19号線を四万十川沿いに9km程遡ったところにある。県道沿い山手側に30数軒の民家が並んでいる。壺斗俵の地名は、最初にこの地を拓いた人が、一斗の年貢米を納めたことにちなむと聞いた。

壺斗俵といえば沈下橋。近くに今は大橋が架かっている。四万十川に架かっていた沈下橋の多くは、大橋ができた時点で撤去されているのだが、この沈下橋は人々の意志で残された。昭和10年に架けられたこの橋は、現存する最古のもので国の有形文化財のひとつである。長さは60メートル。真ん中の橋桁間が広くなっているのが特徴で、川向こうの米奥集落と壺斗俵の集落を繋いでいる。



春姫さま・小松姫さま

畑

仕事をしている人におもしろいお話を聞いた。ここには「イトンゴの谷の春姫さま・小松姫さま」という伝説があるのだという。それぞれに訳あって山を越えて逃げたお姫様が追っ手に捕まり、この地で果てたというお話で、今も地元の人たちに手厚く祀られ、豊作が祈願されているそうだ。地元の小学生が毎年地域の高齢者を訪ねてお話を聞き、伝承もされているということである。

野村成満氏の偉業

さ

て、県道と田んぼの間に大きな水路がある。水先をたどっていくと集落のいちばん上手（栗の木大橋前）にある水の出るトンネルに行き着く。今から約百年前、野村成満氏が私財を投げうって、岩盤をうち砕き大野見から水を引いたという水路トンネルである。



平成12年に新しいトンネルが掘られてからは、その役割を譲ったが、今は鉄格子で閉ざされている洞穴のようなそのトンネルは、小さいながらも誇らしげで、彼の偉業を物語る。

知ってるようで
知らない私たちの町

7

自慢の沈下橋と感謝の水路

壺斗俵